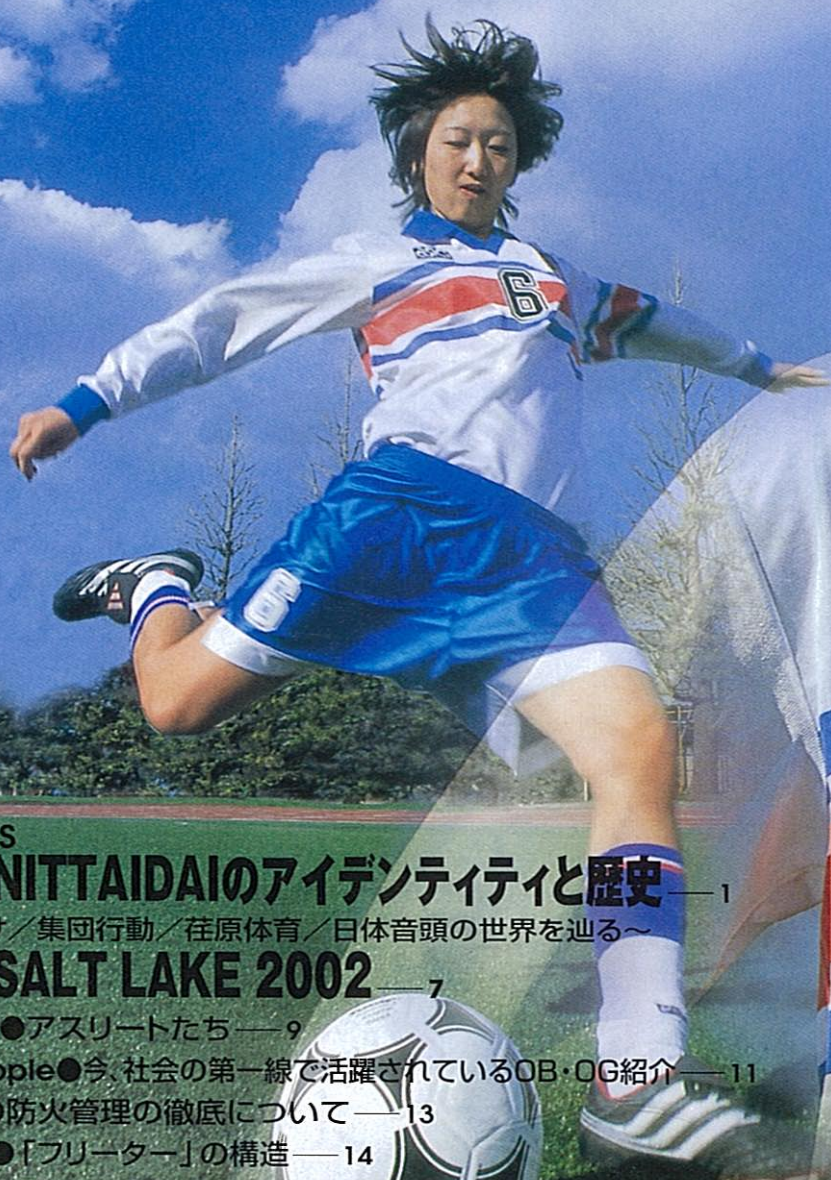


スポーツ文化の風を発信する

# NITTAIDAI

ニッタイダイ 2002年 春

# 04



## CONTENTS

### 特集1 ■NITTAIDAIのアイデンティティと歴史——1

～エッサッサ／集団行動／荏原体育／日体音頭の世界を辿る～

### 特集2 ■SALT LAKE 2002——7

INTERVIEW ●アスリートたち——9

Active People ●今、社会の第一線で活躍されているOB・OG紹介——11

OPINION ●防火管理の徹底について——13

News Eye ●「フリーター」の構造——14

NEWS ●下半期ニュース——15

クラブ情報 ●下半期 クラブの主な大会成績——17

MY VOICE ●みんなの広場——18

INFORMATION ●dot. NITTAI——19



【特集1】

# NITTAIDAIの アイデンティティと歴史

～エッサッサ／集団行動／荏原体育／日体音頭の世界を巡る～

identity & history

NITTAIDAI独特の応援スタイルである「エッサッサ」は、80年の歳月の流れの中で連綿と継承されてきた。大正・昭和・平成と、時代や社会がめまぐるしく変容しようとも、変わらずに継承され残ってきたもの、それが伝統である。

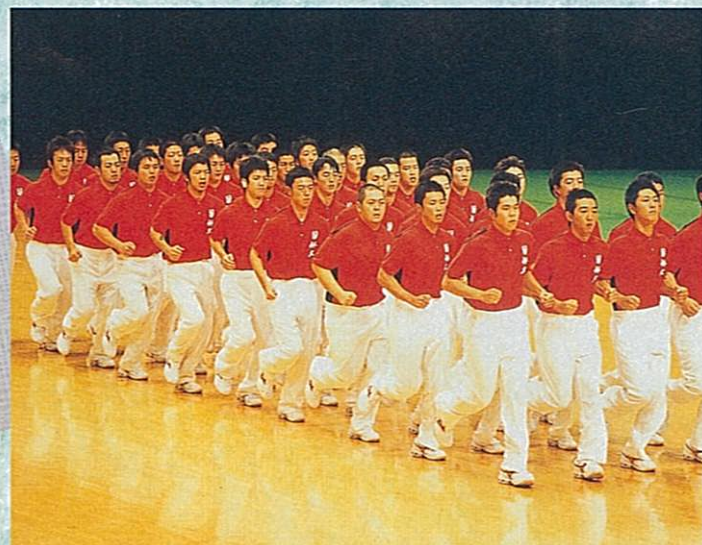
今回の特集では、今に伝わる「エッサッサ」／「集団行動」／「荏原体育」／「日体音頭」の検証を通して、NITTAIDAIのアイデンティティの検証を試みるとともに、それらはどのように現在も継承されているのか、実際に現場で指導に当たられている伊藤直樹（寮監長）・高田良平（レクリエーション方法）の両先生にも取材してみた。21世紀におけるNITTAIDAIの新たな伝統を築くために――。



Identity & history 01

## 【集団行動】

今も息づく、NITTAIDAIならではの伝統。



新入生がオリエンテーションの特別教育活動で必ず教わる「集団行動」。それはいつ頃から始まり、何故、新入生はこれを学ぶのだろうか？

NITTAIDAIの特色ある行事のひとつに「体育研究発表実演会」(昨年第45回開催)がありますが、当初は実技教科担当教員の研究発表の場でした。それが学生の練習成果を発表する場となるのは、昭和30年(1955)9月に田園コロシアムで開催された第2回からです。その実演会案内のプログラムには、「学生の日頃の修練の成果を発表すると共に中学、高校における主教材の段階的発展的取扱の公開、体育祭、運動会等に適切と思われる教材の紹介発表」と、そのねらいが記されています。

「集団行動」がその実演会の演技種目として初めて登場するのは、第11回からです。右記のねらいからして、教員養成校として集団行動の基本的な行動様式と指導を発表、紹介する必要性があったからだと思われます。しかし、「戦前の兵式体操や兵式教練のイメージ」が強かったのか、12年間休止されます。そして、第24回から再開されることになりましたが、最初のイメージを払拭し、新しい感覚で演じられたことから、エッッサと並んで実演会の人気演技となっていました。以後、第37回を除き、毎年実施されています。

実演会は、基本的に学生寮の学生によっても支えられてきたということがそうです。「集団行動」も清原伸彦教授を中心とした永きに渡る指導のもと、現在は学生有志を中心として演じています。

正しい集団行動を体得し、将来、体育指導者として青少年の中で活用されるよう、伝統的に守り伝えられているのです。集団行動は、伊藤直樹教授(寮監長)が「日体大生なら、"整列!"、"行進!"と言われたらキチッと並び、キチッと歩ける、というのが基本」と語るように、体育大学の学生として身につけなければならない不可欠な行動スタイルです。そうした背景から、新入生への特別教育活動の一環として昭和43(1969)年度から集団行動が実施されるようになりました。

「集団行動」は、集団を構成する一人ひとりが秩序正しく行動することの特徴としていますが、その究極のねらいは個々人の「安全性」におかれます。子どもたちの学校生活、とりわけ遠足や修学旅行などの学校行事において、身勝手な行動のために仲間に迷惑をかけるケースは少なくありません。集団の一員としての協力と責任の姿勢を培う必要がここにもあるわけです。

水泳の海浜実習やプールでの授業にはそれが特に求められます。仲間に迷惑をかけただけではすまされない、生命に関わる危険性がそこにあるためです。どんな先生も、この時ばかりは伝統的な集団行動の一様式を採り入れます。軍事的色彩が濃いと見る人もいますが、この集団行動を無視するわけにはいきません。

ですから、運動会での人気種目(徒競走、騎馬戦など)でピストルを使うのと同じように、文化としてこの集団行動を再評価する必要がありますし、「楽しい」集団行動のあり方が求められています。

(第38回体育研究発表実演会プログラム「无尽・新たなスポーツの地平を求めて」の演技指導・清原伸彦教授授けより)

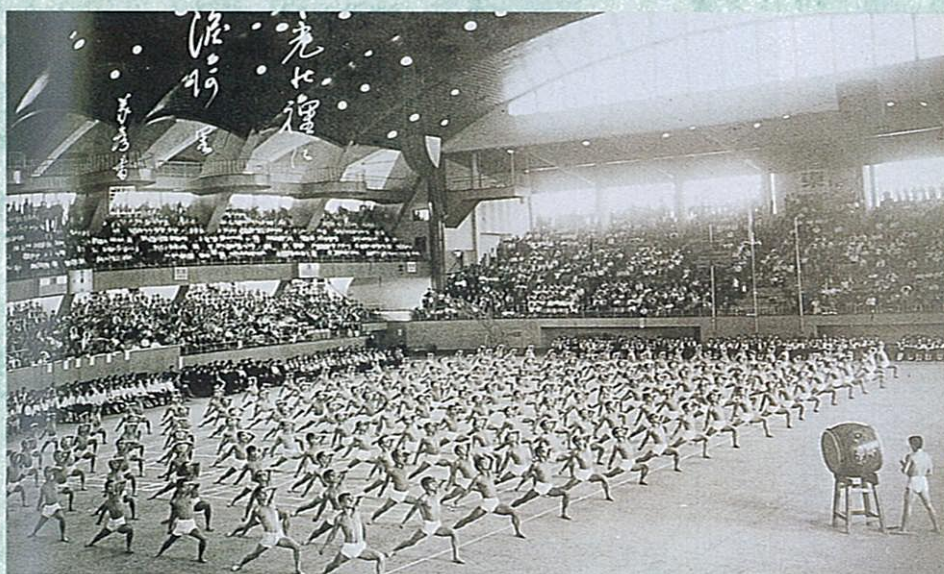




identity & history 02

## 【エッサッサ】

80年近い継承と伝統を誇る、NITTAIDAI独特の応援スタイル。



「離合集散」の美を表現し、月明かりに獅子が月に向かって咆吼するさまを表現したもの、といわれる「エッサッサ」。体育研究発表実演会で演じられ、新入生もオリエンテーションの特別教育活動で必ず学ぶエッサッサは、いつ、どのようにして、生まれたのだろうか？

## 「エッサッサ草創史」

当時、商船学校には「錨を上げて」、農大には「大根踊り」、美術学校（現東京美術大学）には「エロ」など、それぞれ校風を象徴するような個性的な応援歌がありました。それに対して日体には、他校の応援歌を真似たつまらないものがあっただけで、以前から非常に物足りない思いをしていたんです。それで、「よし、この機会に日体ならではの、動きのある応援歌を作つてやるうじゃないか」と。さっそく、あれこれモーションを模索したものの、どうもリズムのノリが悪い。『中略』

「エッサッサ、エッサッサ、エッサホイスッサ……これだ！と思いましたが。この軽快なリズムに併せれば、どこにも真似のできない日体独自のダイナミズムが表現できるのではないかと。そうしてできたのが、実は「エッサッサ」の原型というわけなんです。

ですから、現在言われているように「エッサッサは獅子が吼えているスタイル」などという言葉を聞くと、どうもこぼゆてね。本人はそんな大それたビジョンをもつて作ったわけではなし。ただストリートに日体をイメージできるランニングスタイルを基本に、できるだけ派手で目立つ応援スタイルを作りたい。それだけだったんですよ。『省略』

早くも翌5月、国技館での相撲の対外試合には全校生徒がエッサッサで応援。我々のあまりの迫力に圧されて、他校の応援団がシーンと静まり返ったほどでした。試合が終わると、今度はまた全員で両国から銀座までエッサッサで行進するんです。バスも都電も最初はクラクションを連発するんだけど、そのうちみんなあきらめちゃって立ち往生するのが何とも愉快です。ますます得意になって「エッサッサ、エッサッサ」とやったものです。『省略』

最近、思いがけず現代の「エッサッサ」を見る機会がありましてね。あまりに原型と違っているのに驚きましたが、それ以上に、よく65年もの間「エッサッサ」が受け継がれて来たものだ、非常に感慨を深くしています。ふとした思いつきでつくったものだから。こんなに長い伝統を持つものになるうとは、夢にも思わなかった。しかも、私が勝手に定めた「エッサッサ記念日」——エッサッサをつくった4月15日のことなんですが——が、未だにこの日にこだわって、新入生のエッサッサ訓練を開始していると知って、またまたびっくり。

何事も継承して行うことによって、自然に「心」が生まれてくるものですが、そういう意味では、延々と伝承されてきた今日の「エッサッサ」には、十分に「心」と呼べる何ものが備わっているのではないのでしょうか。形は違っても、そこまで「エッサッサ」を育ててくれた後輩諸氏には、ただ感謝するばかりです。



平井 一（ひらい はじめ）氏

### 【Profile】

明治40年長崎県で生まれる。大正14年4月、日本体育会体操学校入学。昭和2年3月卒業後、佐世保工業高校で教鞭を執る。昭和7年、当時の満州国に渡り、日本武徳会青練所教員となり、終戦を迎える。終戦後は一貫して「書」と「居合道」を極め、名人位となる。大日本居合道連盟理事長。



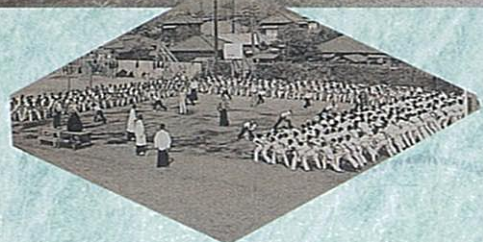
# 【特集1】 NITTAIDAIのアイデンティティと歴史



エッサッサは  
日体大そのもの。  
指導担当 伊藤直樹教授(寮監長)

僕らの時代は、大会で勝った時や先輩を送り出す時には必ず、エッサッサをやったものです。スキー実習でさえ、終わったときには雪の上でパンツ一丁で皆でやったもの。結婚式でもやってました。昔は、何かにつけてエッサッサをやっていました。エッサッサは日体大そのものだったんです。しかし、今は、発表するのは実演会のみで、教えられる場も新入生の特別教育活動の時に限られていて、残念です。今の学生みんなに、達成感を味わってもらいたいです。今も、エッサッサは基本的には変わっていませんが、動きなどに多少変化が見られます。下を向いて「エー」とやるときに、拳を床にこすっているん

です。自分の時代には床に付けていなかったんです。そこだけには不自然なので、こすらないように元に戻させました。そうなのが一番最近だと思えます。誰かがつけ始めると、それが継承され、残っていつてしまう。それは、伝統でも何でもありません。ただ、そうした方がリズムが取りやすく、迫力が出ると思ったのかもしれない。基本的にエッサッサは、太鼓のリズムでやるものだと思います。個人の動きではない。そこを勘違いした学生が始めたのだと思います。また、エッサッサは真剣にやらないと、その一番良いところが表に出てきません。だから、細かな注意より、真剣にやることを強く指導しています。(3月4日、東京・世田谷キャンパスにて)



日本体育大学の独特の応援スタイルとなった「エッサッサ」は、大正10年代の大学の前身である体操学校でうねったスポーツの波が誘因となって誕生しました。その当時の体操学校は、日本体育会が大相撲協会と密接な関係を結んできたこともあってか、全校を挙げて相撲の応援に荏原郡大井村の寄宿寮から国技館に駆けつけていました。その当時、東京農大には「大根踊り」が、商船大学には「鑼をあげて」が独自の応援スタイルとして名を馳せていました。体操学校でも、そのような独特の応援スタイルを考案しようという機運が高まってきました。これに応えたのが、当時、体操学校の在学学生であった平井一氏でした。氏が回想するところによると(回想記事参照)、考案にあたってモチーフとされたのは、当時、アメリカから持ち込まれていた「ピストン・ロッジ・アームモーション走法」でした。この走法は腕を高く振り上げ、手が目の高さには達するという、大変ダイナミックなスタイルです。この腕の振りに静と動、強と弱、速と遅の要素を取り入れ、掛け声は、「エッサッサ」。

このように日体大独自の応援スタイルは平井氏がいた学生寮で誕生しましたが、80年近くもの歳月の流れの中で連綿と継承されてこられたのも、先に紹介した「集団行動」も指導されてこられた清原伸彦教授を中心とした先生方の情熱と、男子寮の学生によって後輩へと伝え続けてきたからにはかなりません。(「オレとエッサッサ」参照)時代は移り、「エッサッサ」も時の寮生たちによって少しずつアレンジされてきました。そして、「離合集散」の美を表現しながら、今日のスタイルへと仕上げてきました。昭和38年には初めて実演会(第9回)に出場しました。以後、毎年出場し、日体大の伝統として大会に彩りをそえています。

## 「オレとエッサッサ」

訓練期間が始まるのは、後期の授業が始まる日からで、その日から本番までいたい40日ぐらい地獄の日々が続くわけ。一日の訓練時間は約1時間程度、早朝6時から訓練が始まるんだ。～省略～

訓練は気を付けの姿勢から始まるんだ。他にもエッサの型を作り、上下運動をしながらエッサの声を連呼する。一人でも苦しくて妥協したら、全員ができるまでやるんだから、それだけでその日は終わってこともある。そんな中、必死に吠えるんだ。ずっと声を出していると、声がかれて腹筋は切れそう。膝はガクガク、太股なんてもうパンパンの爆発3秒前なんだから。もう顔がしわくちゃになるぐらい苦しいのを耐えるんだぜ。目には、何ともできない悔しさで涙が溜まってくるんだ。そんな辛い中、オレの隣の奴が一言、「頑張ろう」って言うてくれたんだ。たったの一言なのになぜかオレは全身に力が漲ってくるような何かを感じたんだ。辛いのはオレだけじゃないんだ、みんな辛いんだって。そんな事を考えたら手は抜けないと思ったね。そんな毎日毎日涙ぐむような訓練が40日終わった日、本番がやって来るんだ。～省略～

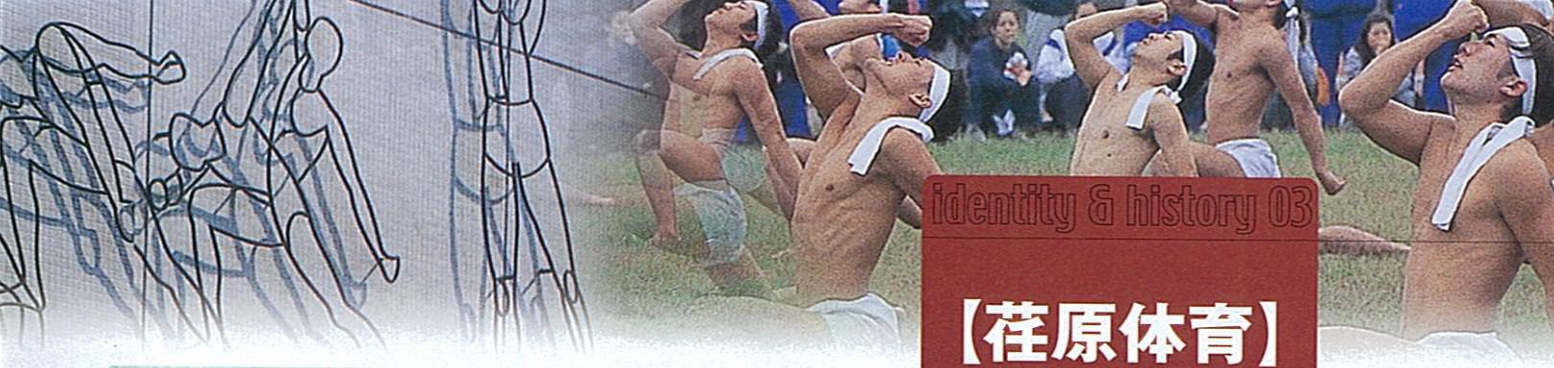
観客の大きな拍手の中、オレは今までにないぐらい吠えて吠えまくった。だってそうだろう、その日はオレがヒーローだもの。一人一人にスポットライトが当たったんだ。あの時のみんなは、きっと誰にも負けないぐらい気合いの入った、たましい本当の日体生になっていたんだろな。その瞬間、オレは自分に勝ったんだ、日体大の伝統を受け継いだんだって思ったね。そして、大きな拍手の中、オレらヒーローたちは、エッサを言いながらゲートを出ていったんだ。

ゲートを出たら、怖い上級生も仲間も、みんな泣き叫んでいた。オレらはやった。辛く厳しい訓練に耐えたんだ。だから今、こうして泣いているんだなって。一つ一つの出来事を思い出して、そして実感していくうちに、オレも顔がグシャグシャになっていたよ。

「ENERGY」Vol.6(96年7月5日発行)に掲載された清原慶之さんの「オレとエッサッサ」より抜粋







identity & history 03

## 【荏原体育】

女子寮から始まった、エッサッサと対照的な女子の応援スタイル。

- 一、荏原体育殿ならござれ  
日毎達者になる身体  
見さっしゃれ 黒いかいにな  
強い意志
- 二、初めはつらいと思った事も  
馴れてしまえば楽なもの  
見さっしゃれ 国士気取りの  
伊達姿
- 三、強い身体にゃ情がこもる  
踊るダンスに夜の曲  
見さっしゃれ エンペローブの  
雨が降る
- 四、体育よいとこ皆出てござれ  
磯の香もする恋もする  
見さっしゃれ 波のしぶきに  
日が暮れる



男子学生の「エッサッサ」に対し、「荏原体育」は女子学生の二つの応援スタイルとして、昭和30年代後半頃から行われ、40年代後半以降、三宅照子名誉教授を始めとした先生方の指導と、女子寮の学生によつて後輩へと受け継がれてきた伝統です。

高田助教授（日体音頭インタビユー時）によると、「当時、女子寮に入寮した千葉吟子先生が、女子も応援できるエッサッサに替わるものを創ろうということで、応援団で伝承されていた応援スタイルをヒントに集団演技にアレンジした」というのが、その始まりらしい。

その頃の応援団のスタイルは、横隊になつてそれぞれ腕を鎖型で組み、脚を大きく高く振り上げるもので、大変勇壮なものでした。エッサッサが「静」の強さを強調しているのに対し、荏原体育は「動」の強さを強調したものであったといえます。しかし、その応援スタイルのできた年月は不明です。おそらくは日体大の前身である日本体育会体操学校時代にまで遡ることができるようです。「荏原体育」と呼んでいるのは、体操学校が東京府「荏原」郡大井村にキャンパスを構えていた時代の名残と見られるからです。誰によつてそのスタイルが考案され、また応援歌の作詞作曲者も未詳です。

この男子の荏原体育に対し、女子の荏原体育は後輩に伝えられていく中でアレンジされ、しだいに女性らしさが強調されるようになっていきました。でも

まだその頃のスタイルは、肩を組み、軸足を地につけ、ただ足を踏み替えるだけで、男子学生が羽織り・袴・高下駄の出で立ちで行うスタイルと大差ないものでした。昭和30年代後半、40年頃にかけては、男女がそれぞれ実施していたのです。荏原体育が完全に今のような女子の応援スタイルへと移行するのは、昭和40年代からです。

昭和49年、荏原体育は第19回実演会に初めて登場します。そのプログラムに、「エバラ体育殿ならござれ……と歌いながら、左右の人と肩を組み、足を斜め前に上げ、ホップする。今度は、逆の足をホップ……というふうに、一連の動作を繰り返すもの」とアレンジされたスタイルが紹介されています。そして、同じ誌面に「私たちも現在教えられたこのエバラ体育を次々と後輩に伝えていこうと思う。このエバラ体育は、女子寮の象徴でもあり、精神を鍛えるためのものである。このようなことで、寮では年1回、2週間の早朝訓練を行い、その内の1週間を荏原体育にあてて、身体的にも精神的にも厳しい練習をやっている」と、責任を持つて伝承していく決意が記されています。

その後、実演会では40回・41回を除き実施されてきましたが、そうした先輩たちの思いがあったからこそ、荏原体育は連綿と継承されてきました。今でも、四月ともなればキャンパス内に女子学生の元気いっぱいの歌声が響き渡ります。



identity & history 04

## 【日体音頭】 「花笠踊り」

唄い踊って日体大生であることを確かめ合う名物踊り。

- 一、ハアーエ 日体名物  
アラエッサッサー  
桜の並木 道も背に散る  
アレサヨー 花吹雪
- 二、ハアーエ 私じゃ好きだよ  
アラエッサッサー  
日体の学生 けいこ帰りの  
アレサヨー 乱れ髪
- 三、ハアーエ 日体学寮は  
アラエッサッサー  
風流なものよ 月の照る夜に  
アレサヨー 雨降らす
- 四、ハアーエ 日体四年は  
アラエッサッサー  
一夜の春よ 恋も語れば  
アレサヨー 詩も作る



「花笠踊り」が実演会の演技種目として初めて登場するのは、「エッサッサー」や「集団行動」よりも早く、第2回(昭和30年)田園コロシムにて開催からで、同年の国体にも進出していきます。以来50年近い歳月の流れの中で、体育祭のフィナーレを飾る名物の一つとして、新入生が毎年この演技に当てられてきています。今では、教員となった卒業生が担当の授業や運動会で実施するなど、学外にも普及しています。

音楽と踊りは、栃木県の「日光和楽踊り」を参考にして構成されており、歌詞は、学生の中から募集されたものを参考にしてまとめられたものです。その内容は、桜並木に取り囲まれた中で、学生がいろいろな思いを抱いて切磋琢磨する姿や学生気質がほのほのとしたタッチで表現されています。

「花笠踊り」誕生のきっかけは、高田助教授によると、「何回目かのレクリエーション大会が日光であった際、同行していた栗本学長(当時)が現地で見たと「日光和楽踊り」を気に入り、それを採り入れ継承しようとの発案からだった」らしい。

音楽は、大太鼓・小太鼓・笛・鐘の楽器を用いた囃子で演奏され、唄い踊ります。踊り方は「日光和楽踊り」の何も持たないで踊る「手踊り」の踊り方と、笠を持って踊る「笠踊り」の踊り方をうまく組み合わせて構成されています。本来、笠は「花笠」と言われるように、笠に花をつけたものを使用しますが、祝賀イベントなどを除き、最近では教習ということもあり、花を付けない厚紙で作った笠で踊っています。

花笠は日本の  
伝統芸能。  
ぜひ経験してほしい。

指導担当

高田良平助教授  
(レクリエーション方法)



私自身も日体大生でしたから、入学した昭和38年に花笠を教してもらいました。卒業後は、毎年指導する方になりましたが、踊り自体は教わった当時と何ら変わっていません。

変化した点は、笠が小さくなったことと、教え・発表する場が少なくなったことです。昭和57・58年までは、実演会の中でも踊っていました。エッサッサーが終わりフィナーレを迎えると、学生・教職員が男女一緒になって踊ったものです。花笠は、男女一緒にやれるところに意義があるんです。

しかし、その実演会でも踊らなくなり、現在、踊れる場は特別教育活動と体育祭、そしてレクリエーション方法にあるローオーガナイズドスポーツの実技科目だけになってしまいました。このままいけば、日本の伝統的な舞踊文化を全然経験しないまま卒業していくことになる。日本の伝統芸能を少しでも継承していくことは大事。廃止してはいけないと思います。

だから、「日光和楽」を伝承してきている日体音頭の指導には気を使っています。言い伝えただけだと、学生はカッコいいものを真似したが。あの先輩がやっていたから、ああいう風にやりたいとなり、そのままにしておくと、変わっていつてしまう。そのため、研修部の合宿で時々微調整します。

ただ、踊りは時代や社会と共に変化しても良いと思うのです。将来、日体音頭「〇〇踊り」が出来る可能性だってあります。例えば「平成踊り」のように。エッサッサーが自然に生まれたように、新しい日体音頭の踊りが学生の中から出てきてほしいですね。それが、本当の意味で伝統と継承だと思います。

(3月4日、東京・世田谷キャンパスにて)



# 21世紀最初の冬季五輪、 日体大から5人出場！

～大舞台での経験をバネに、次を期待したい新星たち～



下山研朗



野明弘幸



佐々木明

世界の77カ国・地域から2500人が参加して、米国ユタ州ソルトレークシティで2月8日から開催されていた第19回冬季五輪は、2月24日、17日間の熱戦の幕を閉じた。  
日本は前回98年の長野では過去最多の5個の金メダルを獲得し、連覇の夢もかかったが、今回はスピードスケート男子500mで清水宏保の銀、フリースタイル女子モーグルで里谷多英の銅メダル、2個に終わった。  
日体大の関係からは、選手5名、役員3名が参加したが、残念ながら思うような結果を残せなかった。勝敗はともかく、雪と氷を舞台に、熱き戦いを繰り広げた選手たちの奮闘シーンを紹介したい。

ソルトレーク





**田中邦雄教授**  
(日体大スケート部部长)

次の課題が見えてきました。

前回の長野では、日体大から青柳徹、楠瀬志保・上原三枝・野明弘幸の4名が出場したが、今回は2人だけでした。ナショナルチームも、世代交代というか、切り替えの時期に来ていると思います。野明はこの舞台を最後と決め、よく頑張ったと思います。「お疲れさん」と言っておきたいですね。中嶋は1年生で初出場ながら、あそこまでの結果を出すとは思いませんでした。彼の前半から飛ばす積極的なレース運びは、きっと4年後につながるはずです。日本のトップとしてやっていく選手です。

中長距離は、どんどんスピード化が進んでいます。いかにスピードを長く保てるか、の持久力が次の課題です。

(3月4日、東京・世田谷キャンパスにて)



**大出一水教授**  
(日体大スキー部部长)

大舞台での経験は次につながる。

正直、皆川は5位以内に入ると思っていました。結果を出せなかったのは、競技をする際の心のタクティクスが不足していたからでしょう。もったいなき細やかな適切な助力があったら、と思います。佐々木は、今回は大舞台での経験を踏まえることが中心で、潜在能力はあるので、次のトリノでは中心人物になるでしょう。

今回はたまたま3人しか出場できませんでしたが、まだ日体大スキー部には日本のアルペン複合の吉岡、フリースタイルでは遠藤や竹田、スノーボードでは川口・鈴木がいます。全員ナショナルチーム組で、五輪に出場できる力をもっている。彼らが地球レベルで活躍できる支援体制のあり方を検討したいと思っています。

(3月4日、東京・世田谷キャンパスにて)



皆川賢太郎



中嶋敬春

## ■第19回オリンピック冬季競技大会(日体大)出場者名簿

### ●スピードスケート

中嶋敬春(日体大1年)／1500m 1分47秒64 23位  
野明弘幸(長野県体育協会)／1000m 1分49秒18 44位  
1500m 1分46秒38 15位

### ●アルペンスキー

佐々木明(日体大2年)／大回転 2分30秒58 34位  
回転 1回目途中棄権  
皆川賢太郎(エオス)／回転 1回目失格

### ●フリースタイルモーグル

下山研朗(日体大1年)／フリースタイル 23.39点 20位

## ■オリンピック冬季競技大会日体大関係者入賞者一覧

[第15回(1988)カルガリー大会]

<5位>●スピードスケート(1500m)／青柳 徹

[第17回(1994)リレハンメル大会]

<6位>●スピードスケート(1000m)／楠瀬志保

[第18回(1998)長野大会]

<6位>●アイスホッケー／近藤陽子

<7位>●スピードスケート(1500m)／野明弘幸

<8位>●スピードスケート(1500m)／青柳 徹

## ■ソルトレーク・パラリンピック日体大関係者の参加

(2002パラリンピック冬季競技大会)

◆開催期間 2002.3.7～3.16

◆日体大関係者の参加

○選手団総務

村松重太 (昭和57年卒) 東京都障害者総合スポーツセンター勤務

○アルペンスキー監督

山川 洋 (昭和60年卒) 横浜市障害者スポーツ・文化センター勤務

○クロスカントリースキーコーチ兼ガイド

小林卓司 (昭和55年卒) 小樽水産高校勤務



## 田代 久美子

(体育学科4年)

大学レベルを超え  
より高いレベルへの  
進化を目指す。

現在、大学チーム相手には向かうところ敵なしの女子サッカー部。今年度の主将に就任した田代キャプテンに、昨年インカレ2連覇(8度目)を達成し3連覇はもちろん、より高いレベルのチームを作るためへの意気込み、抱負を熱く語ってもらった。

当に良かったですね。

― 日体大女子サッカー部のプレイスタイルを教えてください？

田代●選手個々が持つ能力は非常に高いと思います。ですから、逆に個人技に頼りすぎることなく、個人の力が活かされるような組織の力が必要だと思います。

― 田代さんのプレーの持ち味は？

田代●あんまりないです……(笑)。私のポジションは、いわゆるボランチと呼ばれる守備的なMFなんですけど、元々ディフェンスが好きなんです、守備に関しては得意な方ですね、一応(笑)。とにかく足が遅いんで持久力で勝負です！

― リーグ戦を戦う上で心がけていることを教えてください？

田代●監督も常に言われることなくなんですけど、「相手に合わせるのではなく自分達のサッカーをしよう！」とチーム全体で意思統一しています。常に日体大は追われる立場にありますから、相手は相当研究して試合に臨めます。そんな中で

も自分達を見失わないようにと、チーム内の意識を高めることを重要視しています。

― 主将として新しいシーズンを迎えるにあたって目標は？

田代●大学レベルでの勝利はもちろん、その先の全日本選手権へ向けてもう一段高いレベルのサッカーをしていかなければならないと思います。そのためには自分たちのサッカーを更に追求していく必要があると思います。

― オフタイムはどのように過ごしていますか？

田代●オフが長いときは愛知の実家へ帰ります。何よりもリフレッシュ出来ますから。

― 最後に、田代さんにとってサッカーの面白さって何でしょう？

田代●難しさ！(笑)。ポジションはある程度決まっていますが、臨機応変に目の前の状況に対応していかなければならないところにサッカーの奥深さを感じます。それと、1人ではゲームが成り立たないところ、11人が一つのグループになるところが魅力

的ですよね。

(2月12日、東京・世田谷キャンパスにて)

※本誌表紙を飾る



― 高校時代もそのクラブでプレーしていたんですか？

田代●はい、土日はクラブでプレーしていました。平日は高校の男子サッカー部に交じって練習していたんです。女子は一人だけだったんですよ(笑)。

― 日体大に入学したきっかけを教えてください？

田代●私は推薦じゃなくて一般人試で入学したんですけど、とにかく日本一になりたくて、強い大学へ行きたいとの気持ちから日体大を選びました。実際に入学して、高いレベルでプレーできていることは本



## PROFILE ●たしろくみこ●

1980年愛知県生まれ。  
県立常滑北高校出身。  
体育学科4年。高校3年次(愛知県選抜)全日本女子ユース選手権3位。  
2001年ユニバーシアード北京大会に日本代表として出場。今季より主将に就任、より強いチームを作り、3年連続のインカレ制覇を目指す。目下の悩みは「就職を決めること(笑)」。



## バスケットボール部

## INTERVIEW

## 青木 綾乃 木下 博之

(02年体育学科卒)

(02年体育学科卒)

どこにも負けない  
練習量で  
男女アベック日本一達成。

昨秋のインカレ(全日本学生選手権)をアベックで制したバスケットボール部。男子約150名、女子60名の部員をリードし、悲願の日本一を達成した日体大バスケット部の強さと魅力、そして苦労を両キャプテンに語ってもらった。

青木●卒業を控え、部活以外で大学生活の思い出となるようなことはありましたか？  
木下●単位を落とした授業を4年生で履修したことかな(笑)。

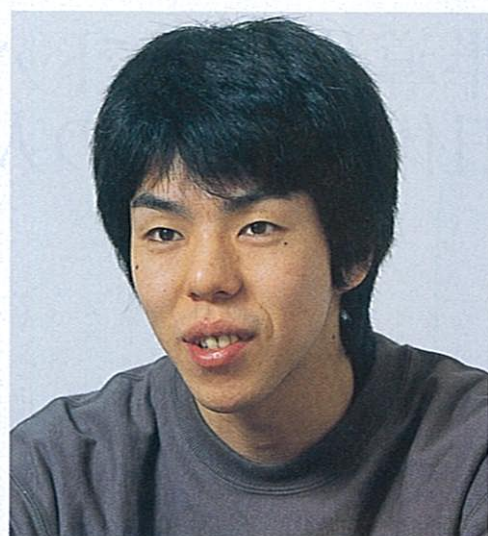
青木●下の学年を引っ張るには4年生が頑張る姿を見せるのが重要だと思い、それまで以上に練習から気合いが入りましたね。

木下●チーム内で意味のない規則は廃止しました。コート内外での切り替えをしつかりすることは、一年間言い続けましたね。

青木●走れるチームです。試合に出ているメンバーだけでなく、沢山の努力が積み重なって強いチームが成立していると思います。

木下●「一つ」になるという意味では日本一でしょう。とにかく粘り強いチームで、練習量には絶対の自信があります。

青木●高校時代の恩師の勧めが大きかったですね。「バスケットをやるなら日体だ」と常に言われて、早い段階から決めていました。



木下●今はインカレMVPでもらったDVDプレーヤーで映画などを楽しんでいます。バスケットの生活で、東京はあまり詳しくないんですよ(笑)。

青木●基本的には休みの日はないですから、

同級生と新たに知り合える場でしたから、本当に楽しかったですね。

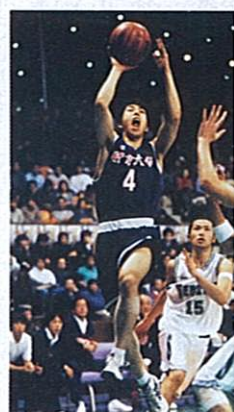
木下●最後にあなたにとってバスケットとはなんでしょう？

木下●自分の生活の中で一番大きな存在です。いつだって体がバスケットを要求しているんです(笑)。

青木●奥が深いんですよ。5人のまとまりが生む一体感を感じた時ですね。(2月28日、東京・世田谷キャンパスにて)



「写真提供:月刊バスケットボール」



「写真提供:月刊バスケットボール」

**PROFILE** ●あおきあやの●  
1979年神奈川県生まれ。  
私立沼津中央高校出身。  
02年体育学科卒。170cm  
バスケットを始めたのは小学校4年の時。  
「周りと同じでなんとなく」が理由。高校時代に恩師と約束した、インカレ優勝を最終学年で涙と共に達成。卒業後は大学の研究室に残り、今年開催される静岡国体に備える。将来の夢は母校で「人間的にも優れた選手を指導すること」。

**PROFILE** ●きのしたひろゆき●  
1980年大阪府生まれ。  
市立桜宮高校出身。  
02年体育学科卒。178cm  
中学からバスケットを始める。高校時代は全国的には無名であったが、大学進学後頭角を露わし、学生最高のポイントガードとして全国に名を馳せる。卒業後は地元大阪のJBL所属の松下電器に入社。世界を目指し新たな戦いが始まる。



# 坂本 幸雄さん

(さかもと・ゆきお)

ユー・エム・シー・ジャパン株式会社(UMCJ)

代表取締役社長

[1970年3月体育学科卒業]



半導体業界でトップとして頑張っているのは、  
日体大で、多くの人とは違う財産を身につけたから。

半導体産業といわれても、我々体育大学の者には、言葉は知っていてもどんな産業かイメージが湧かないに違いない。まして、「半導体ファウンドリー(受託生産)」といわれたら、もうお手上げである。

半導体産業は、パソコンや携帯電話などあらゆる電子機器に組み込まれているICやLSI等の電子部品を開発・生産している最先端産業で、ファウンドリー会社はその量産をメーカーから請け負う企業だという。台湾やシンガポールに多く、その台湾の大手ファウンドリー会社の日本人が、ユー・エム・シー・ジャパン株式会社(UMCJ)である。

坂本さんはその社長であるが、なぜ、体育大学の卒業生が半導体産業の社長に?と思われるかもしれない。確かに、理工系出身者が居並び、工学博士も珍しくない業界において、坂本さんは異色の社長である。

坂本さんは、多くの日体大生がそうであるように、体育教員を志して群馬県から入学してきた。しかし、あえなく教員採用試験に失敗。泣く泣くあきらめ、義兄が勤めていた日本テキサス・インスツルメント(TI)に誘われ、当時としては珍しく外資系の企業に入社したのがこの業界への出発であった。

最初は当然、半導体については半ばの知識もなく、企画課に入ったものの工場の倉庫に廻される。ところが、2年ほど経った頃アメリカから直属の上司が赴任し、坂本さんの数字に強く論理的で合理的な思考が見込まれ、25歳の若さで課長に大抜擢される。それからほとんど拍子。40歳で工場長、42歳にはワールドワイドの製造・開発を管轄する本部長に就任し渡米。そして副社長へとなる。50歳の時ヘッドハンティングされ神戸製鋼所に転じ、ここでも社長補佐まで務めるが、2000年某大手メーカーからの誘いを断り、第三の活躍の舞台としてUMCJを選び、社長として入社したわけである。

坂本さんは、半導体の知識や英語をどこで学び、どのようにしてここまで来たのだろうか?「英語も半導体も特別に講習を受けたことはありません。全て仕事を通して、全て自己流で学んできました。才能は1~2%で、残りは努力の結果だと思います。入社して3回も入院してしまいました。が、頑張つてこられたのは、日体大野球部での日々の競争と寮生活での厳しさ・辛さから逃げず、補欠でも最後までやり通した経験があったからです。だから企業に入つて辛いと思つたことはないですね。それが多くの人と違う自分の財産になっています。もし、あの経験がなかったら体育大学を出た人間が、半導体のトップとしてやっていけるとは思いません」と、登りつめてきたバックボーンを語ってくれた。

最後に、「日体大はある種非常に独特な世界で、誰もが経験できる世界ではないと思います。差別化した方が付加価値が高いように、人と違うということは大きな財産であり、特に、クラブを行ってきた人は他大学になが合わないと思います。だから、日体大出身だからといって理工系が合わないとは思いません。日体大出身であつても、努力すればどのような分野の人にも負けなと思います。ぜひ頑張つて欲しいです」と、励ましのメッセージをいただいた。



ボウリングは、参加人口3500万人を超える余暇スポーツであるが、プロ競技はレベルが高く、奥が深い。そのボウリングで、ギネスブックに掲載されたOGがいる。斉藤志乃ぶさんである。

斉藤さんは昨年6月18日、99年末までに達成した国内通算67勝が世界記録と認められ、世界で最も優勝回数が多い女子プロボウラーとしてギネスの認定を受けた。「今まで、日本のボウリングのレベルに対し、懐疑的な見方が多かったと思います。だから、今回の認定は私の記録以上に、日本のボウリングが世界に認められた、という意味で嬉しく思いますね」。

大学時代、斉藤さんは2年生まで陸上のやり投げ選手だったが、肘を痛めてしまい、トップアスリートへの道を断念せざるを得なかった。丁度その頃、中山律子・須田開代子ら女子プロの人気がTV放映の影響もあり、ボウリングが全盛時代だった。今では考えられないことだが、「日体大でも『学長杯』という大会があった」ほどだった。「世田谷区桜にボウリング場があり、早朝の学生割引で1ゲーム100円でできたので、よく通っていました」。その「学長杯」で、斉藤さんは優勝した。「それが、プロになろうと思っただけでしただけ。それと、やり投げとボウリングのタイミングが一緒だ」という発見も心強かったらしい。

こうして、大学3年の頃から本格的にボウリングを始め、71年4月、女子プロ3期生のプロテストに合格する。7月にプロデビューし、9月には初優勝を飾る。以後、バーフェクトゲーム3回、全日本選手権優勝9回、また前人未踏の国内外通算71勝など、輝かしい金字塔を築くことになる。そんな百戦錬磨の斉藤さんでも、ある大会でプレッシャーからか、「投球の助走に入ろうとした時、身体がロックされたように固まってしまった」体験があるという。「その時は、何とか刻んで前に進み、投球しましたが、投げ続けていなければ、恐らくトラウマのように苦しみ、選手を続けていられたかわかりません」と語るように、ボウリングはメンタリティの強い競技でもある。

その第一人者として彼女は30年以上やってきたが、どんな競技であれ、トップであり続けるには大変な努力を要する。「優勝する喜びが、先への自分を成長させてくれたのではないだろうか。現状に満足することなく、常に自分の投球に対して自問自答してきたからだと思います。現在国内69勝ですが、技術的にも精神的にも、まだまだ成長できていると思っています。出来る限り長く続けて記録を伸ばしたい」と語る言葉に、トップを走り続ける者のみが知る孤高の闘いを見る思いがした。

いまや、斉藤さんと同期の現役はいない。「身体にそれ程の故障もなくやっつてこられたのは、身体のメンテナンスも含め、日体大での知識が生きているから」という。だから、「日体大生には、健康法や運動法などの専門知識を生かし、高齢化社会の健康に貢献してほしい」と、後輩への想いを語っていた。

(2月25日、中野マリイボウルにて取材)

取材協力：中野マリイボウル

## 自分の世界記録以上に、ギネスが日本のボウリングを認めたことが嬉しい!

### 斉藤志乃ぶさん

(さいとう・しのぶ)

プロボウラー、日本プロボウリング協会副会長  
(アメリカン・ボウリング・サービス専属)

[1971年3月体育学科卒業]





## 防火管理の徹底について

平成13年10月21日、東京・世田谷キャンパス深沢校舎2号館において火災が発生し、学生及び近隣住民、並びに関係各位に大変ご迷惑をおかけしました。改めてお詫びを申し上げるとともに、再発防止に向けた全学的な取り組み対策を報告させていただきます。

その取り組みとして、本学は12月14日、東京消防庁玉川消防署へ「防火管理の徹底について」報告書を提出しました。以下、その一部を紹介します。

### 1. 消防計画の実効性の確保及び、防災教育・訓練の徹底について

#### (1) 休日・夜間の防火管理体制の改善

→ 休日、夜間における防火管理・自衛消防活動等初動措置をとりまします。

#### (2) 恒常的又は、一時的な施設の利用者に対する出火防止や火災発生時の初動対応に係る教育を徹底する

→ 施設使用許可証発行時に、火気等の使用制限等／火災通報と初期消火の努力／避難経路図を取りまとめたものを先方に渡し、防火管理の周知徹底を図ります。

#### (3) 自衛消防訓練の実施

→ 平成13年12月11日、玉川消防署員の指導のもと、消火器の取り扱い、放射並びに屋内消火栓の操作方法、放水等の部分訓練を行いました。(写真参照)



#### (4) 喫煙管理の徹底

→ 学内での禁煙場所を明確にし、学内放送等を用い、火気管理の周知徹底を図ります。

※ 研究室、職員執務室、所定の喫煙場所を除くすべての場所を禁煙とする。

#### (5) 巡回警備の強化

→ 火災当日まで、警備は24時間2人配置でしたが、現在は、この他に昼間9人、夜間6人と増員しています。今後は、管財課及び学生課が中心となり、職員による巡回も行うことにします。

### 2. 大量の可燃物となるマット等を使用・保管する施設での火気管理の徹底について

#### (1) 大量にウレタン素材のマット等を使用・保管する場所では、消火器の増設等、初期消火体制を強化する

→ 該当する施設以外の体育館にも、消火器を増設しました。

#### (2) ウレタン素材のマット等を使用する場所については、防災処理が施されているものを使用する

→ 既設の体育館のカーテンは、すべて防災処理が施されているものを使用しています。

### 3. ウレタン素材のマット等を使用する体育館等の防火安全対策について

東京消防庁の「防火安全対策指導指針」に基づいた下記の対策を遵守し、火気管理等の強化を図ります。

#### (1) 出火防止対策について

→ 火気(喫煙を含む)の不使用／巡回等の強化／体育館未使用の際の施錠

#### (2) 延焼拡大防止対策について

→ 防火戸などの閉鎖／ウレタン製マット等を収納する倉庫を不燃材料等で区画

#### (3) 初期消火対策について

→ 消火器・屋内消火栓等の位置・使用方法を周知・確認させ、消火器を増設します。

#### (4) 避難安全対策について

→ 避難口・避難路等の確保を周知・徹底させます。

#### (5) 消防用設備等について

→ ● 消防用設備等の使用・作動に際し、障害とならないようウレタン製マット等を配置します。

● 自動火災報知設備の感知器は、努めて煙感知器にします。

#### (6) 防火管理について

→ ● 休日、夜間等の部外者への貸し出しも含めて体育館等を使用する者には、火気管理の徹底等、消防計画に定める事項について遵守させ、防火管理体制の強化を図ります。

● ウレタン製マット等やその付近から出火した場合は、延焼拡大危険が増大することから、避難誘導を優先するとともに、火災の初期段階から屋内消火栓を活用した初期消火を行います。

● 体育館等で改修工事等が行われる場合は、指導指針の各事項を踏まえた工事中の消防計画を作成・届出します。



151万人。2000年版労働白書で明らかにされた、いわゆる「フリーター」の数である。そしてフリーターという言葉が生まれてから約15年が経過するという。フリーターという言葉から連想されるものは、会社とか人間関係に起因するすべての権威や、あるいは社会関係から派生する服装などの規制から解き放たれ、まさに自らをフリーな立場に置きながら単発や短期アルバイトによって生計を営んでいる若者であり、一種、主体的なイメージとともに豊かさの象徴であるかのようにも感じられる。しかし、その実態は…。今回は、目まぐるしく変遷する時代の趨勢の中に生きるフリーターの実態について検証したい。

## 増える「やむを得ず型」

日本労働研究機構の小杉礼子・主任研究員は、フリーターの特徴を①目標が明確ではない「モトリアム型」②雇用環境の悪化などで就職できない「やむを得ず型」③俳優などを目指す「夢追求型」(朝日新聞02.3.5付朝刊)の3類型に分類し、②の類型が最近増えてきたとし、その理由として「高学歴や在学中の成績が大企業への就職に結びつく構図が崩れ、将来が見えにくくなったこと」などを上げている。同じく同研究機構は「首都圏のフリーターは平均23歳で、週5日働き、月収は14万円」という調査結果を発表している。(毎日新聞00.7.14付朝刊)

## あなたに「異文化を受容する力」ありますか

一方企業は、人材不足を指摘している。就職を希望する人間は溢れかえっているが、希望する人材が著しく乏しいということらしい。それでは企業はどのような人材を希望しているのだろうか。少しデータは古くなるが、1997年に経済同友会が企業に対して行った調査結果を見てみよう。これから重視される企業が求める人材要件として、そのトップ3に、1位「変化への柔軟な対応力」、2位「コンピューター活用力」、3位「異文化を受容する力」がみついている。いずれも従来から重視してきた要件としては

かなり低位にランクされてきたものであり、「異文化を受容する力」にいたっては従来0%であった要件である。若者の立場からすると、企業側の要請の変化に対応して、その簡単に衣を着たり脱いだりできないであろうし、その様な教育も受けてきていないのが現状である。

## エントリーシートに14時間

学生が自己分析に苦勞している実態がベネッセコーポレーションの調べで明らかになっている。「就職活動をした学生が一番困っているのが自己分析と志望動機の作成で、9割の学生が困った」と回答している。企業説明会や採用試験の申し込み時に提出するエントリーシートの最初の1枚を書くのに平均14時間もかかっている(「大予測10年後の大

学」大学未来問題研究会というのである。自己分析が出来ない学生…。これは、多くの大学が入口(入試システム)、中身(教育と豊かな学生生活)、出口(進路・就職)という三位一体の改革を疎かにして、入口、出口の戦略に特化しすぎてきたことにもその一因があるのではないだろうか。

## フリーターを巡るいくつかの動き

最近いくつかの動きが出てきている。その一つは、若者向け(30歳未満のフリーターを対象)のハローワークが4都市(ヤングハローワークしゅや・しごと館「大阪・梅田の「ヤングサポートプラザ」他)で開設されたことである。しゅや・しごと館では、1日あたり600人が訪れ、登

録した約7500人のうち、約3000人が就職を果たしたという(朝日新聞02.3.5付朝刊)また、「劣悪な職場環境で働かされている若い人は多い。泣き寝入りはやめよう」とフリーターの若者の労働組合「首都圏青年ユニオン」が結成されたという報道(産経新聞00.12.9朝刊)や、フリーター抱え込みの人材派遣会社としてリクルートが新会社「リクルートフロンティアエージェンシー」を設立(毎日新聞00.7.14朝刊)という企業サイドの動きもある。

## 日体大の実態は

日本体育大学・日本体育大学女子短期大学の井筒就職部長は、同大学のフリーターの現状について「私たちの大学では、フリーターの領域を『就職希望なし』という意思表示をした学生に限定しています。2000年度の卒業生データからは、ごくわずかです。その他に就職未決定者が当然出てくる訳ですが、これは本学の特性から出てくるものであり、そのほとんどは教員を目指して、非常勤講師や適用教員としてクラブ指導講師を行っていただきますので、フリーターとは厳密に分けて考えています」とし、2002年度からの新たな就職対策事業として「教員採用の一次試験に合格した現役学生に加えて、OBにも広く呼びかけて二次試験対策事業を実施します」と明らかにしている。

## パラサイト・フリーターだけが生き残れる

いずれにしても、フリーターを取巻く環境は厳しさを増しつつある。もはやそこは、進路を決定するまでの「緊急避難場所」としてはあまりにも厳しい労働環境にさらされ、まかり間違っても「自由の領域」などではさらなく、資本の論理「だけが、笑顔で若者たちを構えている。今後、唯一パラサイト・フリーター(親と同居のフリーター)が生き残れる領域となるであろうが、その頼みの親もリストラの恐怖に日々怯えているという構図である。

# フリーターの構造

若者は劣悪な労働環境にさらされ、親はリストラに怯える





## 【平成14年度入試データ】

2002.3.20現在

※( )は女子内数 \*倍率=受験者数÷合格者数

## ■大学／体育学部

| 区 分         |       | 志願者数         | 受験者数         | 合格者数        | 入学予定者数      | 倍率  |
|-------------|-------|--------------|--------------|-------------|-------------|-----|
| 体 育 学 科     | 推 薦   | 493 (128)    | 493 (128)    | 417 (112)   | 413 (111)   | 1.2 |
|             | 一 般   | 1,987 (473)  | 1,961 (465)  | 620 (160)   | 438 (101)   | 3.2 |
|             | 学 科 計 | 2,480 (601)  | 2,454 (593)  | 1,037 (272) | 851 (212)   | 2.4 |
| 健 康 学 科     | 推 薦   | 48 (30)      | 48 (30)      | 41 (26)     | 41 (26)     | 1.2 |
|             | 一 般   | 573 (250)    | 568 (247)    | 196 (87)    | 134 (61)    | 2.9 |
|             | 学 科 計 | 621 (280)    | 616 (277)    | 237 (113)   | 175 (87)    | 2.6 |
| 武 道 学 科     | 推 薦   | 53 (13)      | 53 (13)      | 52 (12)     | 51 (11)     | 1.0 |
|             | 一 般   | 86 (19)      | 85 (19)      | 84 (19)     | 76 (17)     | 1.0 |
|             | 学 科 計 | 139 (32)     | 138 (32)     | 136 (31)    | 127 (28)    | 1.0 |
| 社 会 体 育 学 科 | 推 薦   | 42 (15)      | 42 (15)      | 36 (13)     | 36 (13)     | 1.2 |
|             | 一 般   | 746 (143)    | 735 (140)    | 235 (44)    | 139 (31)    | 3.1 |
|             | 学 科 計 | 788 (158)    | 777 (155)    | 271 (57)    | 175 (44)    | 2.9 |
| 合 計         | 推 薦   | 636 (186)    | 636 (186)    | 546 (163)   | 541 (161)   | 1.2 |
|             | 一 般   | 3,392 (885)  | 3,349 (871)  | 1,135 (310) | 787 (210)   | 3.0 |
|             | 総 合 計 | 4,028 (1071) | 3,985 (1057) | 1,681 (473) | 1,328 (371) | 2.4 |

## ■短大／体育科・保育科

| 区 分   |       | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学予定者数 | 倍率  |
|-------|-------|------|------|------|--------|-----|
| 体 育 科 | 推 薦   | 142  | 142  | 100  | 98     | 1.4 |
|       | 一 般   | 271  | 269  | 105  | 44     | 2.6 |
|       | 科 計   | 413  | 411  | 205  | 142    | 2.0 |
| 保 育 科 | 推 薦   | 44   | 44   | 41   | 39     | 1.1 |
|       | 一 般   | 56   | 50   | 44   | 30     | 1.1 |
|       | 科 計   | 100  | 94   | 85   | 69     | 1.1 |
| 合 計   | 推 薦   | 186  | 186  | 141  | 137    | 1.3 |
|       | 一 般   | 327  | 319  | 149  | 74     | 2.1 |
|       | 総 合 計 | 513  | 505  | 290  | 211    | 1.7 |

## ■大学院体育科学研究科

| 区 分           |     | 博士前期課程  |         |        |        |     | 博士後期課程 |       |       |        |     |
|---------------|-----|---------|---------|--------|--------|-----|--------|-------|-------|--------|-----|
|               |     | 志願者数    | 受験者数    | 合格者数   | 入学予定者数 | 倍率  | 志願者数   | 受験者数  | 合格者数  | 入学予定者数 | 倍率  |
| スポーツ文化・社会科学系  | 合 計 | 17 (4)  | 17 (4)  | 12 (3) | 12 (3) | 1.3 | 0 (0)  | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |     |
|               | 本 学 | 12 (3)  | 12 (3)  | 7 (2)  | 7 (2)  |     | 0 (0)  | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |     |
|               | 他 大 | 5 (1)   | 5 (1)   | 5 (1)  | 5 (1)  |     | 0 (0)  | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |     |
| トレーニング科学系     | 合 計 | 22 (4)  | 21 (4)  | 14 (2) | 12 (2) | 1.5 | 2 (1)  | 2 (1) | 2 (1) | 2 (1)  | 1.0 |
|               | 本 学 | 15 (2)  | 14 (2)  | 9 (1)  | 7 (1)  |     | 2 (1)  | 2 (1) | 2 (1) | 2 (1)  |     |
|               | 他 大 | 7 (2)   | 7 (2)   | 5 (1)  | 5 (1)  |     | 0 (0)  | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0)  |     |
| 健康科学・スポーツ医科学系 | 合 計 | 12 (4)  | 12 (4)  | 10 (3) | 9 (3)  | 1.2 | 6 (3)  | 6 (3) | 5 (3) | 5 (3)  | 1.2 |
|               | 本 学 | 10 (4)  | 10 (4)  | 8 (3)  | 8 (3)  |     | 4 (2)  | 4 (2) | 4 (2) | 4 (2)  |     |
|               | 他 大 | 2 (0)   | 2 (0)   | 2 (0)  | 1 (0)  |     | 2 (1)  | 2 (1) | 1 (1) | 1 (1)  |     |
| 合 計           | 合 計 | 51 (12) | 50 (12) | 36 (8) | 33 (8) | 1.3 | 8 (4)  | 8 (4) | 7 (4) | 7 (4)  | 1.1 |
|               | 本 学 | 37 (9)  | 36 (9)  | 24 (6) | 22 (6) |     | 6 (3)  | 6 (3) | 6 (3) | 6 (3)  |     |
|               | 他 大 | 14 (3)  | 14 (3)  | 12 (2) | 11 (2) |     | 2 (1)  | 2 (1) | 1 (1) | 1 (1)  |     |

◎論文博士  
谷釜了正(本学教授)  
明治期における日本人の身体の国民化の過程に関する研究  
—日本体育会の事業にみる国民体育の振興に着目して—  
木村直人(本学助教授)  
重量負荷時における尿酸動態に関する研究  
—高強度負荷における実施回数との相違について—  
鈴川一宏(本学助手)  
異なる種類のペプチドおよびコラーゲンの腸管壁通過現象

◆平成13年度博士(体育科学)学位授与者◆  
◎課程博士  
・スポーツ文化・社会科学系：野井真吾  
日本における学校での「体力づくり」に関する体育学的研究  
・スポーツ文化・社会科学系：黄義龍  
韓国シルムの研究／民俗シルムからプロシルムへの道  
・トレーニング科学系：岩本陽子  
月経周期に伴う神経筋機能の変動  
・トレーニング科学系：高橋健太郎  
下肢の筋長変化に伴う筋出力機構  
・トレーニング科学系：久保潤二郎  
関節角度による筋力発揮特性の変化  
・健康科学・スポーツ医科学系：戴鶴峰  
ドブラエコー法を用いたスポーツ種目別における心臓・動脈系の特徴

平成14年3月10日、東京・世田谷キャンパス深沢校舎第一体育館にて平成13年度「大学・短大卒業式」が、741教室にて「専攻科修了式」並びに「大学院修了式」が行われ、大学体育学部1335名、短大189名、専攻科12名、大学院33名、前期課程27名、後期課程6名に卒業証書・修了証書・学位記が授与されました。  
特に専攻科は今年度から初の独立した修了式として行われ、修了者一人一人に学長から修了証書が手渡されました。大学院では本年3月をもって退職される石井喜八先生、正木健雄先生、吉田瑩一郎先生よりご祝辞をいただき、修了者の顔にも緊張感と感謝の気持ちが表れていました。また、同じく本年3月をもって退職される中野昭一大学院研究科長から「中野昭一学術奨励賞」として賞状と記念品が後期課程・岩本陽子さんに贈られました。

## 平成13年度「大学・短大卒業式」「専攻科修了式」「大学院修了式」



平成13年度卒業式  
(東京・世田谷キャンパス)



## 最新鋭の人工芝 "フィールドターフ"

平成14年1月25日、東京・世田谷キャンパス深沢校舎に、あざやかなグリーンのグラウンドが現れました。その名は"フィールドターフ"。カナダ産の最新鋭工法による人工芝です。その特徴はつぎのとおりで、これまでの人工芝が抱えていたネガティブな問題を解決しています。

### ○全天候型人工芝

年間を通じて変わらぬコンディションを保つ

### ○天然芝に限りなく近い感触

天然芝になじんだプレーヤーが同じ感覚でボールコントロールを行える

### ○自然なボールの動き

天然芝に近いボールのバウンドと転がりを生み出す

### ○すぐれた透水性

どんなときでも良好なフィールドコンディションを保つ

○やけどを防ぐ特殊オイルコーティング加工  
スライディング時の摩擦を減らし、やけどや擦り傷を防ぐ



## ■本学における 献血運動

近年の化学療法や骨髄移植など目覚ましい輸血医療の発展、また今後進行が予想される少子高齢化などにより、輸血用血液の必要性が一層高まっています。安定した献血を得るためには個人による街頭での献血はもちろんのこと、学校・会社など団体による献血がより有効とされています。

そんな中、スポーツ活動を活発に行っている本学の学生に対する期待は高いものがあり、日本赤十字社からの依頼を受け、年に数回学内において集団献血を行っています。

平成13年度は東京・世田谷キャンパスにおいて2回行い、5月25日に60名、11月2日に92名の学生が献血に協力しました。日体フェスティバル開催中の11月2日には、企画のひとつとして実施し、各運動部・サークルによる受付業務の支援、積極的な学生への呼びかけなど、多大な協力を得ることができました。また、横浜・健志台キャンパスにおいては、10月15日に行い、33名の学生が協力しました。この協力に対してこの度、神奈川県知事より表彰を受けました。

今後、より一層多くの学生が協力するこが期待されています。

### 表彰状

日本体育大学横濱健康科学部

あなたがたは献血の重要性を深く認識し、献血思想の普及と運動の推進に優れた成果をあげられ、まことに表彰します。

平成十三年十月十四日

同崎 洋



## ■日本体育大学名誉博士称号授与式

平成14年2月21日(木)、午後2時30分より、東京・世田谷キャンパス深沢校舎、大会議室において「日本体育大学名誉博士称号授与式」が挙行されました。

本学名誉学位記の第一号を授与されたのは、モンゴル国、サンジベグジン・トゥムルオチル国家大会議長閣下です。

式典は、中野昭一大学院研究科長の開会あいさつで始まり、長谷川正明学長より名誉学位記授与あいさつの後、学位記及び記念品の授与が行なわれました。その後、トゥムルオチル議長閣下から返礼のスピーチがあり、引き続き衆議院議員海部俊樹様(元総理大臣、現日本モンゴル友好協会会長)並びに衆議院議員松浪健四郎様(外務大臣政務官)よりご祝辞を賜りました。

またトゥムルオチル議長閣下より本学に、草原を走る馬の描かれた絵画が進呈され、長谷川学長から本学初の名誉博士からの贈呈品として本学に永く飾り、記念の品にしたいとの謝辞が述べられ、閉会となりました。

閉会後は、いまやモンゴル国と日本国とを結ぶ大きな掛け橋となっている"大相撲"から大島親方、旭鷲山関、旭天鵬関、旭天山関(大島部屋)にも加わっていただき、記念撮影が行なわれ、和やかな雰囲気を残されて本学を後にされました。

### ■モンゴル国 サンジベグジン・トゥムルオチル国家大会議長閣下

|       |             |                          |
|-------|-------------|--------------------------|
| ・生年月日 | 1950.12.24  | アルハンガイ県ウンドゥルオラン郡出身       |
| ・学歴   | 1974        | モンゴル国立大学卒業(数学教員免許)       |
|       | 1981        | モンゴル国立大学大学院卒(哲学準博士、哲学教授) |
| ・職歴   | 1974        | モンゴル教育大学講師               |
|       | 1989        | モンゴル国立大学教授               |
|       |             | 同大学学長、教務主任、副学長を歴任        |
|       | 1992        | 科学・教育省専門教育局局長            |
|       | 1995        | 科学・教育大臣                  |
|       | 1996        | 国家大会議長                   |
|       | 2000        | 国家大会議長再選                 |
|       | 2001.10.19  | 国家大会議長就任                 |
| ・訪日歴  | 1999.10.3~8 |                          |
|       | 2000.3.1~8  |                          |



## 「第45回体育研究発表実演会 The Power of Rhythm」 開催される

体育研究発表実演会は13年度で第45回を数え、10月30日東京大会(東京体育館)が、そして、九州大会が12月20日の福岡公演(北九州市立総合体育館)を皮切りに大分公演(大分県立総合体育館)、佐賀公演(佐賀県総合体育館)、長崎公演(長崎県立総合体育館)の順に23日まで開催されました。

東京大会には2回の公演で約8,000名、九州大会では4公演で11,000名を超える入場者となりました。

出演学生全員によるラベンダー体操で元気よく幕を開け、チアリーダー、少林寺拳法、ダンス、体操、カントリー・ウエスタン・ダンス(研修部)、集団行動(学生有志)、トランポリン、ダブルダッチ・アルティメット、体操競技と続き、男子第一学生寮生による伝統のエッサッサの演技が披露されフィナーレを迎えました。

11年度に第44回を終え、隔年での実施となり最初の実演会であったが、特に九州大会においては準備の段階から同窓会関係みなさま方のご尽力なくしては開催できなかったでしょう。

荒木委員長を中心に実施委員と学生がひとつにまとまり、今回も盛大な実演会であったことを喜ばたいと思います。



# [下半期 クラブの主な大会成績]

| クラブ名          | 大会名                                                                                                                                                                                                                                                                | 結果                                                                                                                                                                                                                                                                              | 氏名・他結果                                                                                                                                                   |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■アーチェリー部      | 全日本学生室内個人選手権                                                                                                                                                                                                                                                       | 2位                                                                                                                                                                                                                                                                              | 仲肥由里子                                                                                                                                                    |
| ■アメリカンフットボール部 | 関東リーグ戦<br>東日本学生王座決定戦                                                                                                                                                                                                                                               | Bブロック優勝<br>優勝                                                                                                                                                                                                                                                                   | 山本茂令<br>野村依可<br>平良朝美<br>下玉利隆<br>今鋒一恵                                                                                                                     |
| ■ウェイトリフティング部  | 全日本大学対抗選手権                                                                                                                                                                                                                                                         | 男子85キロ級優勝<br>女子53キロ級優勝<br>女子58キロ級優勝<br>女子69キロ級優勝<br>女子75キロ級優勝<br>学校対抗女子優勝                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                          |
| ■カヌー部         | 日本レーシング選手権                                                                                                                                                                                                                                                         | カヤックシングル1000m優勝                                                                                                                                                                                                                                                                 | 竹屋美紀子                                                                                                                                                    |
| ■空手道部         | 全日本大学選手権                                                                                                                                                                                                                                                           | ベスト4                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                          |
| ■基礎スキー研究会     | 全日本学生岩岳大会                                                                                                                                                                                                                                                          | 基礎スキー男子団体 3位                                                                                                                                                                                                                                                                    | 日体大基礎スキー研究会A                                                                                                                                             |
| ■ゴルフ部         | 朝日杯全日本学生選手権<br>信夫杯争奪全日本大学対抗戦                                                                                                                                                                                                                                       | 男子優勝 (2年連続)<br>男子優勝                                                                                                                                                                                                                                                             | 太田直己                                                                                                                                                     |
| ■サッカー部        | 関東大学サッカーリーグ後期<br>全日本大学女子選手権                                                                                                                                                                                                                                        | 女子2位<br>優勝 (2年連続8度目)                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                          |
| ■柔道部          | 学生体重別柔道大会<br>全日本学生体重別柔道大会<br>全日本学生体重別団体柔道<br>全国体重別選手権                                                                                                                                                                                                              | 女子57キロ級準優勝<br>女子70キロ級優勝<br>男子ベスト4<br>女子57キロ級3位<br>女子70キロ級3位<br>男子66キロ級3位                                                                                                                                                                                                        | 吉成麗子<br>二宮美紀<br>吉成麗子<br>二宮美紀<br>平野幸秀                                                                                                                     |
| ■少林寺拳法部       | 講道館杯日本体重別選手権<br>全日本学生少林寺拳法大会                                                                                                                                                                                                                                       | 男子団体の部優勝<br>男子単独演武の部優勝<br>男子3段以上の部優勝<br>同3人掛けの部優勝<br>女子団体の部優勝<br>女子2段以上の部優勝                                                                                                                                                                                                     | 福岡善基<br>岩本義隆<br>藤田剛史<br>増井友哉<br>斎藤裕樹<br>糟谷好宏<br>高橋亮子<br>内藤美恵                                                                                             |
| ■水泳部          | 日本学生選手権 水球<br>東京都短水路大会                                                                                                                                                                                                                                             | 水球男子優勝 (4年連続25度目)<br>水球女子優勝 (5年ぶり2度目)<br>男子200m平泳ぎ (短水路日本新樹立)                                                                                                                                                                                                                   | 北島康介 (2分8秒14)                                                                                                                                            |
| ■スキー部         | アルペンスキー北米カップ<br>欧州カップ<br>W杯スノーボード<br>W杯モーグル男子第8戦<br>W杯モーグル男子第3戦<br>W杯モーグル男子第6戦<br>W杯モーグル男子第7戦<br>W杯モーグル男子第3戦<br>W杯スキー 男女デュアルモーグル第2戦<br>ソルトレークオリンピック<br>ノルディックスキー世界ジュニア選手権<br>ノルディックスキー世界ジュニア選手権<br>アルペンFISジャパンシリーズ・デサントカップ<br>第73回宮城スキー大会国際競技会<br>第73回宮城スキー大会国際競技会 | 男子回転39位<br>男子回転13位<br>男子回転9位<br>男子パラレル回転18位<br>7位<br>8位<br>13位<br>19位<br>予選落ち<br>4位<br>男子大回転34位<br>モーグル予選落ち<br>6位<br>20位<br>男子大回転1位<br>男子回転1位<br>男子大回転1位                                                                                                                        | 佐藤照之<br>佐々木明<br>佐々木明<br>川口晃平<br>遠藤淳平<br>下山研朗<br>下山研朗<br>下山研朗<br>遠藤淳平<br>遠藤淳平<br>佐々木明<br>下山研朗<br>青木純平<br>青木純平<br>佐々木明<br>柴田尚哉<br>柴田尚哉                     |
| ■スケート部        | スケート全日本距離別<br>W杯第2戦インスブルック大会<br>浅間選抜スピードスケート<br>真駒内選抜<br>スピードスケートW杯初日<br>スピードスケート全日本選手権<br>ソルトレークオリンピック<br>日本学生氷上競技選手権<br>日本学生氷上競技選手権<br>全日本学生選手権<br>全日本スプリント選手権<br>全日本スプリント選手権<br>全国学生個人体重別選手権<br>全国学生相撲選手権                                                       | 男子1500m2位<br>男子500m3位<br>男子1500m11位<br>女子3000m2位<br>男子5000m3位<br>女子5000m2位<br>女子5000m優勝<br>男子10000m3位<br>男子500m13位<br>男子5000m6位<br>男子500m5位<br>男子1500m2位<br>スピードスケート1500M 23位<br>女子1500M 1位<br>総合対抗得点 女子優勝<br>女子個人優勝 (2大会連続3度目)<br>男子1000m 4位<br>男子500m 6位<br>115キロ級準優勝<br>ベスト4 | 中嶋敬春<br>川田知範<br>中嶋敬春<br>竹ノ内由香<br>安田直樹<br>山本絵美<br>竹ノ内由香<br>安田直樹<br>川田知範<br>安田直樹<br>中嶋敬春<br>中嶋敬春<br>中嶋敬春<br>中嶋敬春<br>竹ノ内由香<br>竹ノ内由香<br>中嶋敬春<br>川田知範<br>日景清悦 |
| ■相撲部          | 全国学生個人体重別選手権<br>全国学生相撲選手権                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                          |
| ■ソフトテニス部      | 関東学生リーグ<br>全日本学生選抜ソフトテニスインドア選手権                                                                                                                                                                                                                                    | 男子優勝 (2年ぶり20度目)<br>男子ダブルス優勝                                                                                                                                                                                                                                                     | 杉浦和浩 山田拓未<br>大須賀由美                                                                                                                                       |
| ■体操競技部        | 全日本体操選手権                                                                                                                                                                                                                                                           | 女子種目別 跳馬2位<br>女子総合3位 男子総合4位                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                          |
| ■軟式野球部        | 東日本大学選手権                                                                                                                                                                                                                                                           | 男子優勝 (5年ぶり5度目)                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                          |
| ■バスケットボール部    | 関東学生バスケットボールリーグ戦<br>全日本学生バスケットボール選手権                                                                                                                                                                                                                               | 男子3位 女子優勝<br>男子優勝 (2年ぶり14度目)<br>女子優勝 (6年ぶり16度目) アベック優勝                                                                                                                                                                                                                          | 最優秀選手 木下博之<br>最優秀選手 正士琴代 優秀選手 青木綾乃                                                                                                                       |
| ■バドミントン部      | 全日本学生バドミントン選手権                                                                                                                                                                                                                                                     | 女子準優勝<br>男子ベスト4<br>女子シングルス 準優勝                                                                                                                                                                                                                                                  | 松尾美穂子                                                                                                                                                    |
| ■ハンドボール部      | 関東学生ハンドボール<br>全日本学生選手権                                                                                                                                                                                                                                             | 男子2位<br>女子エベ団体2位<br>男子サークル団体3位<br>男子サークル優勝<br>女子フルレ優勝                                                                                                                                                                                                                           | 笹田健一<br>中川規子                                                                                                                                             |
| ■ラクロスチーム      | フェンシング高円宮杯選手権大会<br>関東学生リーグ                                                                                                                                                                                                                                         | 男子準優勝<br>女子準優勝                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                          |
| ■陸上競技部        | 日本陸上選手権リレー競技                                                                                                                                                                                                                                                       | 男子400mリレー2位                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                          |
| ■レスリング部       | 国民体育大会<br>国民体育大会<br>全日本学生王座決定戦<br>全日本選手権<br>全日本大学グレコローマン選手権                                                                                                                                                                                                        | 成年グレコローマンスタイル69キロ級優勝<br>成年フリースタイル54キロ級 優勝<br>優勝 (2年連続22度目)<br>グレコローマン97キロ級 優勝<br>フリー54キロ級 優勝<br>58キロ級 優勝<br>63キロ級 優勝                                                                                                                                                            | 佐野裕樹<br>松永共広<br>森裕介<br>松永共広<br>伊藤光<br>柳川育弘                                                                                                               |





このコーナーは、「日体大に関する感想・意見」を取材や投稿により紹介するページです。学生をはじめとして保護者・卒業生・高校生・一般の方から、さまざまな感想・意見をいただきました。今後も「みんなの広場」へ自由な声をお寄せください。

## ●部活ではないけど、活動援助を……

(学部3年生の保護者、FAXにて投稿)

我が家の娘は、今、体育学科の3年生です。1年生のときから「セバタクロ」というスポーツを行っています。日体大ではクラブ・サークルとしてもまだ認められていないようです。セバタクロ協会に所属し、日体大以外での練習もしております。1年生の時から日本代表の一員として、ベトナム・タイなどの海外試合に毎年参加しております。

なにせ、マイナーなスポーツのため知名度が低く、現に私もまったく知りませんでした。誰に話しても「セバタクロって何？」という答えが返ってきます。そのため、現役選手は資金の面においても全て自前で、海外試合は言うに及ばず、練習場の体育館を借りることから工面しなくてはなりません。国の援助はほとんどなく、大学からの援助もなく、親も毎年の旅費に四苦八苦しております。

大学側では、クラブ・サークルという形ではないと活動費が出ないというのですが、こうして部活ではないが一生懸命練習に励み、海外との試合にも着実に成果をあげてきているセバタクロに、せめて少額の活動費の援助をと思うのです……

## ●やつぱり、ニッタイダイはすこかった

日体大実演会『九州大会』観覧

(佐賀大会・高校2年生男子とそのお父さん、佐賀県総合体育館にて取材)

「日体大が九州にやってくる！」と聞いた時から、今日の日は本当に楽しみにしていました。西日本新聞にも大きく出ていましたよ。

オープニングからニッタイパワー全開で、どんどん迫ってきました。何が一番よかったか？ そりゃあもう「エッサツサ」でしょう！ 男の力強さ、たくましさは圧倒され「百聞は一見にしかず」をこのときほど実感したことはありませんでした。あと、「集団行動」の動きには驚きと共に笑いもあり、すばらしいものを見せてもらったという思いです。福岡、大分と行い、明日は長崎へ移動するそうですが、できたらもう一度見てみたいです。

それから、「入試相談コーナー」があつて、入試のことはもちろん、授業のこと、クラブ活動のことなどいろいろと知ることができました。特に、体育大学としてはあたりまえのことでしょうが、体育・スポーツに関することをあんなに詳しく学ぶとは思っていませんでした。

僕にとってあこがれの日体大に入れるよう、がんばろうと思います。親としても、日体大でビシビシ鍛えてもらって、たくましい男になってほしいですね。

## ●すばらしいグラウンド 東京・世田谷キャンパスグラウンド「フィールドターフ」

(平成14年度入学試験、男子受験生、東京・世田谷キャンパスにて取材)

入学試験で静岡から来ました。体育学科と社会体育学科とを併願し、体育学科の時は雨で立ち幅

跳びになり、グラウンドを使うことができませんでしたが、今日は100m走ができました。アップのためフィールドに入り、その感触にびっくりしました。下からの突き上げ感がぜんぜんなく、適度なクッションがあつて、ウエアーもぜんぜん汚れず柔軟運動もたつぷりでできて、とにかく快適でした。

聞くところによると、東京ドームの人工芝もこれと同じものに張り替えられるとか……その感触をいち早く体験することができてよかったです。もちろん今回の試験の結果によりますが、入学できたかと思いきりここでスポーツしたいですね。

## ●みんな、ありがとう。

(体育学科男子4年生卒業式にて取材)

とうとうこの日がやってきました。あつという間の4年間でした。

入学して陸上をやりました。個人的にはたいした競技歴も残せませんでした。でも、部活を通じて学んだことは数多くあります。先輩・後輩との関係、トップアスリートの競技に対する取り組み方、みんなをまとめることや指導することの難しさ、社会との関わり……

民間企業に就職(おそらく営業職)が決まっていますが、特に、人と人とのつながりをたくさん持てたことはこれからの仕事に大きな財産となるでしょうし、私が一生懸命活躍することで後輩たちにもいいネットワークが広がると自覚してがんばります。

とにかく、多くの友人に恵まれ、充実した4年

## ●実践することの難しさ。

(保育科1年生・保育実習、日体幼稚園にて取材)

2年生に教育実習を行うのですが、その前に事前実習(見学実習)を一週間、日体幼稚園で行わせていただいています。

初日は緊張のあまり、何をしたいのか、どう動いていいのかわからなくて、子どもたちにもうまく声を掛けてあげられませんでした。ピアノもうまく弾けず、紙芝居を読んでもしっくりこなくて……。でも、そんな私のピアノにも紙芝居にも、子どもたちは一生懸命歌ってくれて聞いてくれて、授業で教わった知識として知ってほしいことを実践することの難しさを、今は子どもたちに助けられている状態です。

今日で3日目なのですが「日体大生らしく、明るく、元氣よく、めりはりをつけて行動する」この、先生方からいただいたことが実践できるよう、残りの実習を充実させ、次の教育実習に取り組みたいと思っています。そして、「日体大の卒業生」にふさわしい幼稚園の先生になります。

## ●このコーナーへ、手紙・FAXで自由な声をお寄せください。

郵送/〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 日本体育大学・日本体育大学女子短期大学「NITTAI DA」みんなの広場宛 FAX/03-5706-0949



# dot. NITTAI

## ■学年暦 (平成14<2002>年度上半期)

| 月 | 日(曜日)         | 行事                                                              |
|---|---------------|-----------------------------------------------------------------|
| 4 | 3(水)          | 入学式(横浜・健志台キャンパス)                                                |
|   | 4(木)~10(水)    | 新入生オリエンテーション<br>(健康診断、スポーツテスト、学生証手続、履修申告、他)<br>在学生 健康診断、履修申告確認等 |
|   | 11(木)         | 前学期授業開始                                                         |
|   | 15(月)         | 大学 養護実習(健康学科健康科学コース4年) [5/25(土)まで]                              |
| 5 | 25(土)         | 介護等体験事前指導講習会<br>(健康・社会体育学科2年、短大体育科1年 第1回)                       |
| 6 | 3(月)~22(土)    | 教育実習(大学4年)、教育実習2(短大保育科2年)                                       |
|   | 3(月)~29(土)    | 教育実習(短大体育科2年)                                                   |
|   | 8(土)~22(土)    | 介護等体験事前指導講習会<br>(健康・社会体育学科2年、短大体育科1年 第2回)                       |
| 7 | 3(水)~16(火)    | 大学 海浜実習(1年)                                                     |
|   | 8(月)~12(金)    | 短大 体験実習(1年)                                                     |
|   | 18(木)~24(水)   | 前学期定期試験期間                                                       |
|   | 24(水)         | 前学期授業終了(試験を含む)                                                  |
|   | 25(木)         | 夏季休業 [9/29(日)まで]                                                |
|   | 25(木)         | 大学 社会教育実習(社会体育学科3年) [9/29(日)まで]                                 |
|   | 25(木)~28(日)   | 大学 水泳指導実習:日赤水上安全法コース(体育学科3年)                                    |
|   | 26(金)~29(月)   | 短大 キャンプ実習(保育科2年)                                                |
|   | 29(月)         | 大学 看護臨床実習(健康学科看護コース3年) [8/31(土)まで]                              |
|   | 30(火)         | 大学 キャンプ指導実習(体育学科3年) [8/10(土)まで]                                 |
| 8 | 7(水)          | 前学期成績提出締切日                                                      |
|   | 20(火)~23(金)   | 大学 ゴルフ指導実習(体育学科2年) 第1回(雲石)                                      |
| 9 | 8/31(土)~10(火) | 大学 キャンプ理論・実習(社会体育学科2年)                                          |
|   | 17(火)~20(金)   | 大学 マリンスポーツ理論・実習(社会体育学科3年)                                       |
|   | 20(金)~29(日)   | 大学 水泳指導実習:ダイビングコース(体育学科3年)                                      |
|   | 20(金)         | 開学記念日                                                           |
|   | 17(火)~20(金)   | 大学 ゴルフ指導実習(体育学科2年) 第2回(雲石)                                      |
|   | 24(火)~27(金)   | 大学 ゴルフ指導実習(体育学科2年) 第3回(菅平)                                      |
|   | 25(水)~28(土)   | 大学 伝統芸能実習(武道学科伝統芸能コース2年)                                        |
|   | 30(月)         | 後学期授業開始                                                         |

## ■新採用教員紹介



成田 國英 (ナリタクニヒデ)

[大学:教授] 教養・教職科  
教職教育1  
東京都立大学大学院人文科学研究科修士  
文学修士



大野 誠 (オノマコト)

[大学:教授] 健康学科  
大学院健康科学・スポーツ医科学系  
東京慈恵会医科大学医学部卒業  
医学博士



宮島 敏 (ミヤジマツトム)

[大学:助教授] 健康学科  
社会福祉学  
日本社会事業大学社会福祉学部卒業



米地 徹 (ヨネチオオル)

[大学:講師] 体育学科  
運動方法(ラグビー)  
日本体育大学大学院体育学研究科修士  
体育学修士



田辺 勝 (タナベマサル)

[大学:講師] 武道学科  
運動方法(柔道)  
日本体育大学大学院体育学研究科修士  
体育学修士

## 図書館に寄贈された稀覯資料と日体史料の新たなスペースが確保されました

従来から「稀覯書目録」で紹介されている貴重書をはじめとして、本学図書館の国内外の体育・スポーツに関する充実した蔵書は、学内外において高く評価されております。今回、下記の二大稀覯コレクションの受贈と日体史料の整理により、さらに整備充実されることになりました。

### 1.「岸野雄三文庫」スポーツ科学関係コレクション(約1万点-受贈完結)

スポーツ科学・スポーツ史・スポーツ人類学研究の第一人者として周知の学識経験者である岸野雄三先生所蔵の体育・スポーツ科学に関する個人蔵書。

### 2.「猪谷千春文庫」オリンピック関係コレクション(約5千点-受贈継続中)

コルチナ・ダンベツツォ冬季オリンピック大会(1956)回転競技の銀メダリストであり、現在は国際オリンピック委員会(IOC)の理事・委員として国際的に活躍している猪谷千春(JOA)会長所蔵のオリンピック関係の個人蔵書。

### 3.「日体史料室」Nittai Archives(文書史料・約8千点+展示資料・約百点-収集継続中)

『学校法人日本体育会百年史』を編纂・刊行した際に学内外において蒐集された文書史料と旧百年記念資料室の展示資料を追加・再構成したものをまとめた日体大関係の史料群。

関係者のご協力を得て、横浜・健志台キャンパス5号館2階のフロアーが確保できました。このスペースで、これら3群の特別コレクションの整理・目録作成作業と書架への排列作業を進めております。特に、一時段ボール保管状態だった「日体史料」が利用可能になりました。併せてお知らせいたします。

■問い合わせ先: 図書館 03-5706-0906

## ■日本育英会奨学生の募集について

日本育英会奨学金制度は、経済的に安定した学生生活を送るために設けられています。奨学金を受けるためには、学力、人物ともに優れ、経済的に修学が困難であると認められることが条件になります。

募集については学生課、教学局の掲示板で通知しますので、希望者は必ず確認をし、機会を逃さないようにしてください。なお、家計を支えている人の失職、死亡、不慮の事故、災害などによって家計が急変した場合は「緊急採用」「応急採用」の制度がありますので、事情が生じたときには早急に学生課、教学局に相談をしてください。

各地方公共団体の奨学金については、大学に募集があった場合は掲示にて通知しますが、原則的に各地域の教育委員会等に各自で問い合わせをしてください。

問い合わせ先  
学生課03-5706-0904  
教学局045-963-7900

【編集後記】今、東京・世田谷キャンパスのグラウンドは、学生たちの歓声でいっぱいです。

「フィールドターフ」。その革新的な人工芝をみなさんはご存じでしょうか。本編・下半期ニュースにも掲載したように、ひとを集めるその魅力は、あざやかな緑であり、天然芝に近いその弾力性であり、「一度足を踏み入れたら出たくなくなる」とその感触に絶賛の声が上がっています。クラブ活動はもちろん、仲間とスポーツを楽しんだり、寝転がったり語ったり……笑顔と満足感があふれています。やはりここは「ニッタイ大」。活発で躍動感ある学生たちが主役です。東京・世田谷キャンパス、屋外バレーコート跡地に福利厚生棟(更衣室・シャワールーム棟)が、横浜・健志台キャンパス、百年記念館横には教室棟(16教室)が、仮設ではありますが本誌発刊の4月上旬には完成予定となっています。また、4月末には仮設体育館も完成予定です。10月21日に2号館を失ったことにより、学生たちには不自由を強い、一般の方々にもご迷惑・ご心配をお掛けしましたが、少しずつ、一歩ずつではありますが、学生たちが充実感の味わえる施設・設備に力が注がれようとしています。